

第20回 スクリーンコンサート 2023. 2月

今月のテーマ **ベートーヴェン**

1770年12月16日～1827年3月26日（満56歳没） ドイツ
管弦楽作品からオペラ、宗教作品、様々な編成の室内楽作品や歌曲まで、多彩なジャンルの創作を手掛けたベートーヴェン。

数多くの後世の作曲家へ、多大な影響をもたらした“楽聖”。そして、今なお、全ての音楽家の目標であり続けているベートーヴェンを取り上げました。

ベートーヴェンの人気曲ランキング（データは収集した機関等により変わります）

○第1位 交響曲第9番「合唱つき」・・・（第18回で視聴）

第2位 交響曲第7番

第3位 ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」

第4位 ピアノ・ソナタ第14番「月光」

第5位 交響曲第5番「運命」

○第6位 交響曲第6番「田園」・・・（第2回で視聴）

第7位 ピアノ協奏曲第5番「皇帝」

○第8位 エリーゼのために・・・（第14回で視聴）

第9位 交響曲第3番「英雄」

第10位 ピアノ・ソナタ第23番「熱情」

（○は過去に取り上げています）



視聴曲目

1、ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」第2楽章（5分）

第2楽章は冒頭部分の叙情的なメロディと、美しくもの悲しいメロディーが印象的です。テレビCMなどで頻繁に用いられています。

2、ピアノ・ソナタ第14番「月光」第1楽章（9分）

ベートーヴェンが31歳のときの作品で、弟子であり恋人でもあったイタリアの伯爵令嬢ジュリエッタ・グイチャルディに捧げられた。

別名「月光」の名は、ベートーヴェン死後に、ある人が第1楽章についてスイスの「ルツェルン湖の月光の波に揺らぐ小舟のよう」とコメントしたことに由来すると言われています

3、ピアノソナタ第23番「熱情」第3楽章（9分）

ベートーヴェンの全作品中においても、燃えるような激しい感情と寸分の間もない音楽的構成の一致から、最高傑作の中のひとつに数えられ、また最も重要な作品のひとつとされている。

4、 ピアノ協奏曲第5番「皇帝」 (40分)

通称「皇帝」とも呼びます。同時代の作曲家兼ピアニストのヨハン・バプティスト・クラマー(1771-1858)が、この楽曲から抱いた印象を元に名付けたものと言われています。

第1楽章 オーケストラの”ジャン！”という合図で、力強いピアノのカデンツァが入り、曲は始まります。華やかで堂々とした

第2楽章 静かで穏やかな時間が流れます。ピアノによっておだやかな旋律が奏でられ、それに木管と弦が静かに支えます。

曲は次第に静かになっていき、最後にピアノが次の楽章を予告するような旋律を奏し、第3楽章へと続いていきます。

第3楽章

ピアノのエネルギッシュなメロディーで始まり、華麗なピアノや、豪快な管弦楽によってこの壮大な曲は明るく終わります。

5、 交響曲第5番「運命」 (40分)

クラシック音楽の代名詞と言ってもいい誰でも知っている名曲ですが、全楽章を聴く機会はコンサート以外にないと思います。4楽章すべてを聴いてみましょう。

コンサート会場で聴くと、エネルギーに満ち溢れる生のオーケストラの音に感動します。

この曲を作曲した頃のベートーヴェンの聴覚はかなり悪化して、会話もままならぬ状態だったと言います。

第1楽章

「ジャジャジャジャン」とか「ダダダダーン」という有名な動機に始まり、これは全曲を通してよく知られるフレーズが登場してきます。

第2楽章

優しく美しいメロディーです。懐かしい幸せな思い出、または日だまりのような暖かな感じが漂います。

第3楽章

悲しさの中にも客観的に自分の運命を受け止めようとしている決心のような雰囲気から始まります。

第4楽章

第一楽章とは正反対で、明るくハイテンションです。悩みを全く感じられません。よく晴れた日に素晴らしい景色を見ながらドライブをしているような、爽快感や疾走感があります。